

令和3年度 学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立 大新小学校
作成日	令和 4年 2月 25日

1 教育目標

豊かな情操とまろやかな英知を育み、たくましく生きる子どもを育てる。

2 学校自己評価についてのご意見

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査において、国語・算数ともに県平均並みの結果を目指す。 ・児童アンケートの「私は毎日の勉強がわかる」の項目で「(まあ)そう思う」90%以上	・児童アンケートの「私は学校が楽しい」の項目で「思わない、あまりそう思わない」5% ・保護者アンケートの「楽しそうに学校に通っている」の項目で「(まあ)そう思う」95%以上	・保健室が実施する元気大作戦(生活アンケート)で、運動や体を動かす遊びの達成率90% ・睡眠時間の確保(生活アンケート) 達成率90%	・保護者アンケートの「学校の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で「(まあ)そう思う」90% ・地域や公民館などと連携した取り組みを、各学年1つ以上実施する。
意見重点目標に対する	・目標として掲げ、子ども主体の取り組みとして、書くことと読むことは基本的な目標で適切であると思うが、読書活動からより自分の意見をまとめて伝えたり、思いを共有する活動を推進したり、より深い目標を持っても良いのではないかと考えます。	・道徳や人権教育の充実は、今後大きく成長していく過程で非常に重要なことだと考えます。自分を認め、相手を思いやる気持ちを育むため、取り組みの継続とともに、充実を期待します。	・基本的生活習慣は人間の基礎であり、これが乱れると生活が大きく左右され、体の成長だけでなく、心にも影響してくるので、継続して取り組んでいただきたい。そこから気力、体力の充実につなげていけるようにお願いします。	・学校の情報公開をより積極的に進めていき、保護者はもちろん、地域の方々にも小学校の活動を知っていただけるよう、これからも発信を続けていきたいです。
意見取組状況に対する	・子ども主体の話し合いはとても大切だと感じます。大新小学校の少人数ならではの特徴を生かし、発表などを通して思いや意見を皆で共有しあえるような授業を望みます。 ・スマホやタブレットなど電子機器に触れることが多い中、自主学習、また書くことや本に親しむ機会を多く取り入れているのは良い取り組みだと思います。	・「心根の優しい子」を目標にするのはとても大切だと思います。自尊心を高め、互いに認め支えあい、笑顔あふれる学校、学級作りは、これからの心の成長の糧になることでしょう。「心ふれあい体験」をより深めていけるよう期待します。 ・なかよし活動を通して、思いやりや達成感を育み、青少年赤十字活動などの奉仕活動は豊かな心の育成にも繋がるものと考えます。	・なかよし活動では、年間を通しマラソンや縄跳びなど、コロナ禍でも積極的に体を動かすよう実施されたことは評価できました。教師も一緒に活動することで、子どもも刺激になり、良い取り組みだと思います。 ・朝ごはんは一日の活動の始まりの元なので、子どもだけでなく保護者の協力も必要です。 ・安全意識もこれからいつ来るかわからない災害に備えられるよう引き続き継続をお願いします。	・ホームページでは、ホームにコロナに関するお知らせが目に入るため、学校や子どもに関わる情報発信が伝わりにくいです。より工夫が必要かと思われます。 ・外部講師やふれあい教室の開催など、コロナ禍で大変な中、子どもたちにとっても地域の方々に関わる有意義な機会であると思われる、ありがたく感じています。
に取組する適意切見の検証結果	・県学力調査だけでは判断できないが、算数が平均より下回った点では、それまでにつまずきが出ていることも考えられる。各学年でも定期的に確認することも大切ではないか、と考えます。 ・アンケート結果の残り9%の子どもについても引き続き自信や意欲が持てるような支援をお願いします。	・小規模の学校の中で3%の子ども10%の保護者が学校が楽しくないと感じている現状に対して、今まで以上に注視していく必要があると考えます。楽しいと感じていない要素について把握できるようにして、全ての子どもが心豊かに過ごせるように環境づくりを求めます。 ・引き続き道徳の授業を通して思いやりの心を持ち、相手の思いに気づき、行動できるように指導をお願いします。	・運動や体を動かす遊びの達成率が90%を下回ったことだが、冬場やコロナ禍という中で難しいところはあると思います。外遊びの啓発はもちろんだが、室内でできるストレッチなど学校と家庭が繋がった活動ができればよいのではないかと考えます。 ・睡眠時間の達成率は上がってきているようだが、高学年につれ、達成率が低くなる傾向にあると思う。特にネット関係など、子ども自身も推移を振り返る機会を持たせることも必要かと思えます。	・クラスの様子は、各クラス担任がクラスだより等でお知らせして下さるが、学校全体となるとコロナ禍で学校に行く機会が減っているため、知ることが難しかった。その中で、90%の方が評価しているため、引き続きより広く、工夫した発信を期待します。また、少しでも地域の方々の協力を頂き、知識を学ぶ機会が作れたのは良かったと思います。
改善年度方法に方向性に対する意見	・児童アンケートより、勉強がわからない子どもが10%いることに鑑み、毎日の学習はもちろん、学力向上タイムの活動を有意義にし、学習習慣を定着させる取り組みが大切です。 ・自主学習については、自主的に取り組むだけでなく、目標を持ち、継続できるような関わりが必要と考えます。 ・これからは家庭と連携をとり、協力していけるよう引き続き啓発に取り組んでいただきたい。	・全ての子どもが「学校に行きたい」「勉強や友達との関わりが楽しい」と思えるような学校になってもらえるように期待します。また、道徳教育、人権意識を常に持ち、子ども一人ひとりが大切な存在であることを感じられるような取り組みを引き続きお願いします。	・心身の充実は重要課題だと思われれます。引き続き、なかよし活動などを通して心身ともに健康な状態で過ごせるよう継続しつつ、保護者に対しても食事バランス、睡眠の質の向上など学校と家庭で協力しながら、子どもが生き生きと過ごせるような関わりが必要です。	・各発信の仕方はわかりやすいものが一番良いです。簡単に知ることができるような発信を創意工夫して、大新小学校の魅力を伝える努力をお願いします。 ・ゲストティーチャーや公民館の方々との連携はこれからも続けていくだけでなく、特に公民館では作品の展示など協力頂いていることも多いので、そのことを保護者や地域の方々にお知らせすることも重要です。

3 その他のご意見

・コロナ禍の影響で行事など縮小という形になりながらも、少しでも子どもたちが喜べる行事を今後も続けられることを願います。
・どうしても学校に行く機会が減るため、孤独や不安を感じる家庭も少なからずあると感じる。子どもが学校でどんなことをしているのか、学校が発信することで、親子の会話も増え、環境が変わることもあると思うので、子どもたちのがんばりや学校内行事も記録に残すだけでなく、積極的に知らせていただきたい。